

2025年2月17日

世界の人びとのための J I C A 基金活用事業
終了時活動報告書報告書（2023 年度採択案件）

1. 業務の概要	
(1) 案件名	みらいインベスト～外国にルーツを持つ生徒のための進路サポート～
(2) 実施団体名	SHIZULATINOS
(3) 実施期間	2023 年 11 月 27 日から 2024 年 10 月 31 日
(4) 実施国	日本
(5) 活動地域	静岡県西部地域
(6) 活動概要	
①活動の背景： 進学へのチャンスを持っているにも関わらず、経済的困難や、知識・情報不足のため、その道が絶たれる子供がいる。静岡県西部における外国人家庭では、産業構造の関係上、保護者の雇用形態が派遣社員など不安定なケースが多く、また言語の問題も重なり、子どもに進学の実選択肢があったとしてもその手段を知らないが故に進学や自己実現の道を諦める状況に陥りやすい。 既に外国ルーツを持つ学生向けの進路説明会等は各学校等で実施されているが、通常のセミナーでは生徒のみを対象としており、言語の課題（日本語または外国語が不得意）には言及しておらず、また保護者との関係性上、学生に伝えた情報が正確に保護者に共有されないという状況も少なくない。 そのため、この事業を通して保護者と生徒が同じセミナーに参加することを推進。さらに個別相談対応を行う。また生徒の保護者を両親だけに限定せず広く門戸を開くことで兄弟姉妹、祖父母など様々な家族との参加を可能にした。	
②活動の目標： キャリアセミナーとその後のフォロー等による進学に関する情報提供・支援等を通じて改善をはかり、外国人家庭の子どもの進学及びキャリア形成をつなぐ。本事業をトライアルとして実績をつくり、行政、民間企業、法人団体、外国人事業主、教育機関など多くの関係者からの理解・協力を仰ぎながら、この様なセミナーを協働実施していく体制を構築していきたい。 同時に、西部地区のみならず、静岡県全土への実施や他県へのモデル事例として紹介・発展させていくことで、外国人学生の入試受験率増加を目指し、彼らの積極的な社会参画からなる、多様性豊かな日本社会の実現に貢献していきたい。	
2. 業務実施結果	

（１）実施した内容＊

外国人生徒及びその保護者を対象とした進学・キャリアセミナー2回の実施。

静岡県浜松市のアクトシティのコンgresセンターで第1回目実施。

様々な国籍の方々が参加できるように3言語分の同時通訳と多言語スタッフなどを当日配置。

その後個別フォローアップを8回実施、各回4組の親子を相談できるように対応。

静岡県浜松市の可美公園総合センターホールで第2回実施。

第1回目同様様々な国籍の方々が参加できるように3言語分の同時通訳、さらに第1回目よりも多くの多言語スタッフなどを当日配置。

その後8回分の個別フォローアップを実施。後半の実施に関しましては対面だけではなく、オンラインでの開催を実施。静岡県の遠方や県外の方からの相談を実現。

（２）実施成果：

- ・外国人学生のオープンキャンパスへの積極的な参加の増加（静岡文化芸術大学・浜松自動車大学校からの情報）。
- ・2年次への進級を金銭的な理由でできず、学校を辞める予定だった人が教育ローンの活用により無事進級でき卒業に向かう。
- ・進学を諦めていた学生が進学へのチャレンジ。（センター試験待ち）
- ・留学への相談。
- ・行政へのアピール、理解、協力など。
- ・新聞記事やネット記事を通して静岡県民をはじめ、国民の皆さまへの現状発信。

（３）得られた教訓など：

1. ターゲット層に合った情報提供が重要

対象者に適切で具体的な情報を提供することで、関心と参加意欲を引き出せる。

2. 多様な協力者の巻き込みが成功の鍵

情報を信頼できる教育機関や専門家を巻き込むことで、イベントの質と影響力が上がり参加者も安心して参加できる。

3. 文化的多様性への配慮

参加者の背景に合わせた多言語対応、簡潔で視覚的な資料表示、ラテン系のみではなく、他の言語の方々も参加できるように配慮。

4. ニーズを事前に把握する準備の大切さ

外国人学生の進学に関する課題や悩みを把握し、それに応じたセミナー内容が提供、事前調査や参加者の声を反映し続け事業の改善・成長につなげる。

5. 相互交流の場

情報提供だけでなく参加者同士や進学関係者との交流機会が、参加満足度を向上させた。

6. イベント後のフォローアップの重要性

セミナーが「大好評に終わった」という結果を満足せず、むしろそれを活かし、継続的なフォローアップでより多くの方に届ける。

7. 全国ニュースサイトに記事があがることにより、今まで接してこなかった“反外国人”“日本人優位思想”と思われるユーザから誹謗中傷のようなコメントがあった。事業の実施に影響するほどのものではないが、まだまだそのような思想が、日本の中に存在し、全体のグローバル化が進んでいないことが再確認された。このことから、当事業を始めとした様々な多文化共生にかかる活動が

如何に大切であるか、その必要性の高さを再認識できた。

（４）今後の活動・フォローアップの方針：

次年度では今回の反省点や教訓を最大限に活かし、次回はさらに参加者に寄り添ったイベント設計や長期的なネットワーク形成を目指す。

手始めに次年度ではセミナーを１回に集約（より正確により多くの方の参加を試みる）。

個別相談の枠を増やし、対面だけではなく、オンライン回数も追加する。

年度の後半では基本的に手引き作成、予算内での可能な限りでは多言語化をしていきたい。

さらに既存の外国にルーツを持つ学生（大学生や専門学校生など）との交流の場を設ける。

３．その他(エピソード・感想・写真など)

（１）活動中のエピソード・感想など

当事業を実施して、多くの成果を実感しました。参加者が日本の進学システムへの理解を深め、不安を解消する姿を見ることができたのは大変嬉しい経験でした。また、進学関係者との連携により、多角的で信頼性の高い情報を提供でき、参加者からも「具体的で役立つ」との好評をいただきました。セミナー後のアンケートで、進学の第一歩を踏み出せたと感じる声が多かったことは大きな励みになりました。さらに、文化的背景が異なる参加者との交流を通じ、私たち自身も新しい視点や理解を得ることができました。この成功を糧に、今後も多文化共生を意識した取り組みを進めたいと思います。

（２）活動の写真



セミナー後の学校別相談ブース



大学の先生ではなく、
ゲストで喋ってくれた先輩とも相談



親子体験の発表 専門学生



外国人学生向けのメッセージ JICA 中部次長



セミナー第1部 受験スケジュール



国の教育ローン名古屋センター副所長

(3) JICA 基金活用事業を実施したことで団体の成長につながった点・良かった点

当団体として大きく成長できたことを実感。ネットや新聞記事などに載せていただいたことにより多くの外国人の関心を得ることができ、さらに日本人や行政機関への認知度も大きく高まった。これからの支援の連携などがスムーズにできる基盤が築けた。JICA 基金を使用することで今までできなかった支援や試みが実施できたので、今後これを継続できるように精進していく。